

(臨床研究に関する公開情報)

公立陶生病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名] Non-intubated ARDS の臨床的特徴と予後の検証

[当院研究責任者] 部署名 救急部 氏名 寺町 涼

[研究の背景] 急性呼吸窮迫症候群(ARDS)は様々な原因により、急激に呼吸不全を来す病気です。これまで主に挿管・人工呼吸管理を行った患者さんを基に診断されておりましたが、その死亡率は約20~50%と極めて高いと報告されてきました。近年、マスク型人工呼吸(NPPV)や専用鼻カニューレから高流量酸素空気混合ガスを投与するハイフローセラピー(HFNC)が呼吸不全の患者さんに広く使用されるようになりました。それに伴い、2023年にARDSの診断基準が改定され、NPPVやHFNCを使用した患者さんでも基準を満たすことで、早期にARDSを診断し治療を行うことができるようになりました。しかしながら、このような患者さんの中で挿管・人工呼吸管理が必要となる患者さんの割合や死亡率、そのリスクとなる項目は分かっていません。NPPVやHFNCを用いても呼吸不全が悪化した場合、早期に挿管・人工呼吸管理へ治療強化を行わないと死亡率が増加することが言われており、予後の把握は重要と考えられています。

[研究の目的] 本研究では2023年の新たな診断基準を基に診断されたARDSの患者さんを挿管・人工呼吸管理下で診断された群(Intubated群)とNPPV又はHFNC下で診断された群(Non-intubated群)の2つに分け、背景や検査結果、治療内容など比較を行います。また、Non-intubated群の中で挿管・人工呼吸管理を要した患者さんの割合や死亡率を調べ、そのリスクとなる因子を検証します。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

2021年5月から2023年12月に公立陶生病院の集中治療室(ICU又はER-ICU)に入室した患者さんの中で、2023年の国際診断基準に基づきARDSの診断を受けた18歳以上の患者さん。

●研究期間：研究実施承認日から2025年12月31日

●利用する検体、カルテ情報

診療情報(カルテ)から、年齢、性別、既往歴、身体所見、検査結果(血液検査、画像検査)、ARDS原因疾患、治療内容、入院情報、生存情報などの情報を収集します。

●利用する検体、カルテ情報の管理

本研究で用いるカルテ情報は、当院のみで利用します。

[研究組織]

1. 研究代表者

公立陶生病院 救急部・部長・寺町涼

2. 研究分担者

公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科・部長・横山俊樹

公立陶生病院 救急部・医員・内藤恵仁

公立陶生病院 救急部・部長・川瀬正樹

公立陶生病院 救急部・部長・中島義仁

公立陶生病院 救急部・部長・市原利彦

公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科・部長・山野泰彦

公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科・部長・片岡健介

公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科・部長・木村智樹

公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科・部長・近藤康博

[個人情報の取扱い]

研究に利用する情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除し、研究用の番号を付けます。また、研究用の番号とあなたの名前を結び付ける対応表を当院の研究責任者が作成し、診療情報との照合などの目的に使用します。対応表は、研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。研究成果は学術集会で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。

[問い合わせ先]

公立陶生病院

所属部署 救急部 氏名 寺町 涼

電話 0561-82-5101

FAX 0561-82-9139